

# 令和6年度第3回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和7年2月17日

## 配付資料

- 令和6年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】 令和6年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・ P 2
- 【資料2】 伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況・・・・・・・・ P 5  
①令和7年度 ②令和6年度
- 【資料3】（再掲）伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）・・・・・・・・ P 7  
【北部・南部別】
- 【資料4】（再掲）令和21年度までの伊賀地域の県立高等学校（全日制）の  
総学級数と当協議会の協議について・・・・・・・・ P 8
- 【資料5】（再掲）伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて（令和7年度）・ P 9
- 【資料6】（再掲）伊賀地域の専門学科と総合学科の学び・・・・・・・・ P 10
- 【資料7】（再掲）全日制高等学校の設置学科と学級数の推移・・・・・・・・ P 11  
①伊賀市 ②名張市
- 【資料8】 伊賀地域県立高校の学科別募集定員の推移（人数）・・・・・・・・ P 13
- 【資料9】 伊賀地域公立中学校卒業生の全日制高校への進学状況・・・・・・・・ P 14
- 【資料10】 県立高等学校（全日制）の学級数の状況（令和7年度）・・・・・・・・ P 15
- 【資料11】（再掲）伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について・・・・・・・・ P 16
- 【資料12】 伊賀地域の県立高校の学びと配置に関する協議について・・・・・・・・ P 23

## 令和6年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

No	区 分	所 属 等	氏 名
1	学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	かとう たかや 加 藤 貴 也
2	有識者 (4名)	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚
3		中外医薬生産株式会社 管理本部総務管理室長	かみ で ゆう こ 上 出 優 子
4		株式会社アサネットワーク 代表	い しゅう もと ゆき 伊 集 基 之
5		オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	かとう こう し 加 藤 幸 司
6	市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一
7		名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一
8	県立学校長代表 (3名)	上野高等学校 校長	すぎ さか ひで のり 杉 阪 英 則
9		あけぼの学園高等学校 校長	なか しば とも ひろ 中 柴 友 宏
10		名張青峰高等学校 校長	みず もり きと し 水 守 智 士
11	小中学校長代表 (2名)	伊賀市立城東中学校 校長	ふた い ひで お 二 井 英 夫
12		名張市立赤目中学校 校長	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘
13	P T A関係者 (5名)	伊賀市P T A連合会 顧問 (伊賀市立霊峰中学校P T A)	やま した かい と 山 下 界 渡
14		名張市P T A連合会 顧問 (名張市立北中学校P T A)	きた がわ しょう じ 北 川 昌 司
15		伊賀地区県立学校P T A協議会 会長 (あけぼの学園高等学校P T A会長)	おか だ みどり 岡 田 みどり
16		伊賀市内県立学校P T A 代表 (伊賀白鳳高等学校P T A会長)	みず の ち え み 水 野 智恵美
17		名張市内県立学校P T A 代表 (名張高等学校P T A会長)	あん どう み ほ 安 藤 美 穂
18	教員代表 (2名)	伊賀市立上野東小学校 教諭	かつ しま だい すけ 勝 島 大 輔
19		名張青峰高等学校 教諭	ふじ たか て る や 藤 高 照 也

計19名

**令和 6 年度第 2 回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要**

- 1 日時 令和 6 年 1 1 月 2 5 日（月） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 5 5 分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

伊賀地域の県立高校の総学級数が、現在の 2 5 学級規模から、令和 5 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する 1 5 年先には 1 1 ～ 1 3 学級規模となることを見込まれる中、当協議会における「令和 5 年度のまとめ」や、地域の中学生・保護者へのアンケート結果をふまえ、1 5 年先の伊賀地域の県立高校の学びと配置のあり方を見据えながら、令和 1 0 年度以降に想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

**《県立高校の学びと配置のあり方について》****【学校規模について】**

- 「令和 5 年度のまとめ」では、普通科における多様な学びの維持や大学進学に向けた指導の充実のためには、少なくとも 1 学年 6 学級はある方が望ましいとされている。一方、今回のアンケートでは、中学生の多くが 2 ～ 3 学級や 4 ～ 6 学級を希望していることから、こうした規模でも子どもたちが高校に期待する教育は実現できるのかについてあらためて確認すべきである。
- アンケートでは、子どもたちは学校に対して、学びたい学科・コースがある、多様な学びの選択ができる、学校行事が充実している、部活動が活発であるといったことを望む回答が多く、これらを実現するためには一定の規模が必要である。
- 高校の理科や地理歴史・公民科は、各科目に分かれて専門性を重視した学習を行っており、これらの科目をまんべんなく開設し、それぞれに専門性の高い教員を配置するためには、6 学級以上の規模が必要である。
- 小規模校になると、理科において物理が開設できない、あるいは、物理を専門とする教員が生物や化学も指導するといったことが生じており、大学進学のニーズに応える専門性の高い学びの実現は難しくなる。
- 部活動は、引率や危機管理の面から部活動毎に複数の顧問を配置しているため、教員数すなわち学校規模によって設置できる部活動数も限られてくる。また、小規模校では、部員不足により、他校との合同チームで大会に出場せざるを得なくなることも多い。
- アンケートのクロス集計から、中学生は現在在籍する中学校と同じような学級数を希望する傾向が見てとれるため、生徒の希望だけでなく、さまざまな視点から高校における望ましい学校規模を考えていく必要がある。

**【通学に係る課題について】**

- 地域によっては最寄り駅までのバスがなく、子どもたちが自力で高校に通うことが難しい。そういった地域の公共交通機関の充実について、何らかの働きかけができるとうい。

- 通学に関する課題を解決するためにバイク通学を認めるとともに、通学時の交通安全を確保するために、始業時間を遅らせたり、終業時間を早めたりしてはどうか。
- アンケートでは、通学のしやすさは高校を選ぶ際の重要な要素となっている。一方、国の調査では自宅から近いという理由で高校を選んだ生徒は入学後の満足度が低い傾向にあるとの結果があり、このことをふまえて考える必要がある。また、許容できる通学時間として、60分以内とする回答が多かったが、資料からは現在の伊賀地域の中で5校は概ねその条件を満たしていると言えるのではないかと。

### 【学びと配置のあり方全般について】

- 進学を希望していた高校が統合されると、県外への進学や就職を選択する中学生も増えるのではないかと。単に生徒数が少ないから統合するのではなく、どうすれば小規模校を残すことができるのかも考えてもらいたい。
- 学校規模ありきで議論を進めるのではなく、従来の教育方法を見直すという視点も必要ではないかと。一方で、小規模校における丁寧な学びを大規模校でどのように実現するかについても、同時に考えていく必要がある。
- 一定規模を維持するために統合が必要であることは理解するが、単なる数合わせではなく、当地域にどのような高校が必要なかをゼロベースで考えていくべきである。
- アンケート結果をふまえると、当地域には国公立大学や難関私立大学への進学をめざす特進クラスと一般的な進学クラスを設置した1学年6学級規模の普通科高校、基本的な学びを中心に学びの選択肢をそろえた専門学科と普通科が共存する高校、そして、必要とする生徒がいる限りあけぼの学園高校のような小規模校、これら3つのタイプの高校が必要であると感じる。ただし、現在の場所ではなく、統合して交通の便のよい場所に新築したほうがよい。
- 地域の企業やまちづくりの立場からは、地元の生徒に少しでも早く地元で働いてもらいたいと考えている。一方で、アンケートでは、地域と連携した活動や地域を題材とした学びを望む声がとても少なく、歯がゆさを感じている。高校生がアルバイト等で地域で活躍し、そのまま地元へ就職していく姿を小中学生が見ることで、地域で働くイメージを持ってもらえるのではないかと。
- 行きたい高校や学科・コースがあっても、前期選抜では受検できないという声や、くくり募集により入学前に学科が選べないという声がある。一方で、部活動の強豪校に行きたいので学科にはこだわらないという声もある。こうした中、学びの選択肢の維持だけでなく、入試制度をどうしていくのかも大切になるのではないかと。

### 《今後の協議の進め方について》

- アンケートの記述を見ると、統合は避けるべきと回答した保護者の多くは、少人数になっても現在の状況がそのまま維持されると考えている可能性が高い。学校が小規模化することによるリスクをしっかりと伝えた上で、どのように対応すべきかの議論に早く舵を切らないと手遅れになる。
- 15年先には当地域の中学校卒業生数は半減し、県立高校は2校になることも想定しながら、令和10年度の学級減への対応についてとりまとめる必要がある。

- 当地域では、伊賀市と名張市の交通の便が大きな課題であり、これ以上統合が進むと、今以上に津など他地域への流出が進むことが懸念される。「令和5年度のまとめ」にもあるように、伊賀地域だけではなく、隣接する地域を含めて学びと配置のあり方を検討する必要があるのではないか。
- 学科・コースの選択肢や多様な子どもたちの受入れなど学校の機能面と、それらをどの場所で実現するかというハード面は分けて議論する必要がある。
- 中学校現場としては高校の数は多い方がよいが、中学校卒業生数が減少したとしても、統廃合せずに現状の学びを維持することができるのかをシミュレーションするために、事務局から具体的な案を示してほしい。

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和7年度）

更新版

資料2①

高校名	学科・コース名	R7 募集定員	R6.12 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	学際探究	160	210	48	198	48	112									
	理数	80	73	40	72	40	40									
	計	240	283	88	270	88	152									
あけぼの学園	総合学科	80	65	40	65	45	35									
	計	80	65	40	65	45	35									
伊賀白鳳	機械	35	35	18	35	20										
	電子機械	35	13	18	14	14										
	建築デザイン	35	38	18	39	20										
	生物資源	35	24	18	22	20										
	フードシステム	35	42	18	43	20										
	経営	30	22	15	22	16										
	ヒューマンサービス	35	30	18	30	20										
	計	240	204	123	205	130	110									
	総合学科	200	214	100	216	108	92									
	普通	200	194	60	193	66	134									
名張青峰	文理探究コース	40	36	20	36	22	18									
	計	240	230	80	229	88	152									
伊賀地域計		1,000	996	435	987	459	541									

【参考】今後の入学者選抜の日程(県立・全日制)  
 ・後期選抜の願書受付期間 2月21日(金)~26日(水)  
 ※志願変更期間 3月3日(月)~5日(水)  
 ・後期選抜の検査 3月10日(月)  
 ・合格者の発表(前期選抜等を含む) 3月17日(月)

※「R6.12希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された進路希望状況調査による。  
 ※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和6年度）

資料2②

高校名	学科・コース名	入学定員	R5.12 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	200	163				200	163	0.82	196	4	3	2	201		
	理数	40	76	20	74	20	20	56	2.80	20				40		
	計	240	239	20	74	20	220	219	1.00	216	4	3	2	241	241	
あけぼの学園	総合学科	80	74	40	73	44	36	45	1.25	36				80	80	
伊賀白鳳	機械	35	35	18	33	20										
	電子機械	35	31	18	33	20										
	建築デザイン	35	40	18	40	20										
	生物資源	35	21	18	21	18	106	109	1.03	106				241	241	
	フードシステム	35	43	18	44	20										
	経営	30	39	15	40	17										
	ヒューマンサービス	35	26	18	28	19										
計	240	235	123	239	134	106	109	1.03	106				241	241		
名張	総合学科	200	217	100	225	108	92	102	1.11	92				200	200	
名張青峰	普通	200	180	60	176	66	134	119	0.89	118	16	6	6	191	191	▲ 9
	文理探究コース	40	34	20	34	22	18	15	0.83	15	3	3	3	40	40	
	計	240	214	80	210	88	152	134	0.88	133	19	9	9	231	231	▲ 9
伊賀地域計		1,000	979	367	821	394	606	609	1.00	583	23	12	11	993	993	▲ 9

※「R5.12希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された進路希望状況調査による

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

## 伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

## 資料3

令和6年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 現中3	R 8.3 現中2	R 9.3 現中1	R 10.3 現小6	R 11.3 現小5	R 12.3 現小4	R 13.3 現小3	R 14.3 現小2	R 15.3 現小1
卒業生数	708	738	718	714	674	651	658	624	602	588	563	526	507
前年度対比		30	-20	-4	-40	-23	7	-34	-22	-14	-25	-37	-19
R6.3対比					-40	-63	-56	-90	-112	-126	-151	-188	-207
①公立小中在籍者数	(662)	(676)	(659)	(656)	611	603	615	617	596	580	555	520	501
②私立小中在籍者数	(46)	(62)	(59)	(58)	55	32	24						
卒業生数	721	717	703	694	762	706	706	698	670	631	619	629	569
前年度対比		-4	-14	-9	68	-56	0	-8	-28	-39	-12	10	-60
R6.3対比					68	12	12	4	-24	-63	-75	-65	-125
③公立小中在籍者数					759	704	705	732	701	662	648	659	596
卒業生数	1,429	1,455	1,421	1,408	1,436	1,357	1,364	1,322	1,272	1,219	1,182	1,155	1,076
前年度対比		26	-34	-13	28	-79	7	-42	-50	-53	-37	-27	-79
R6.3対比					28	-51	-44	-86	-136	-189	-226	-253	-332
①②③小中在籍者数					1,425	1,339	1,344	1,349	1,297	1,242	1,203	1,179	1,097

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	27	26	26	26								
( )内は入学定員の計	(1,040)	(1,040)	(1,000)	(1,000)	(1,000)								

※ 伊賀北部＝伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部＝名張市に旧青山町を加える。

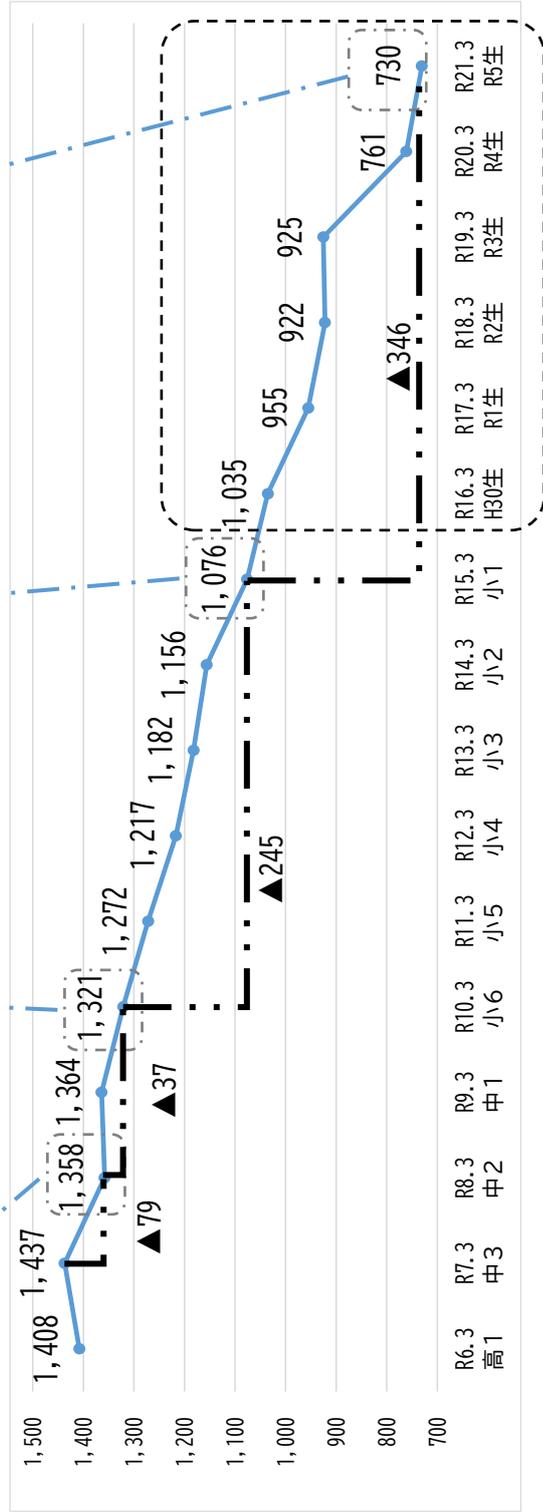
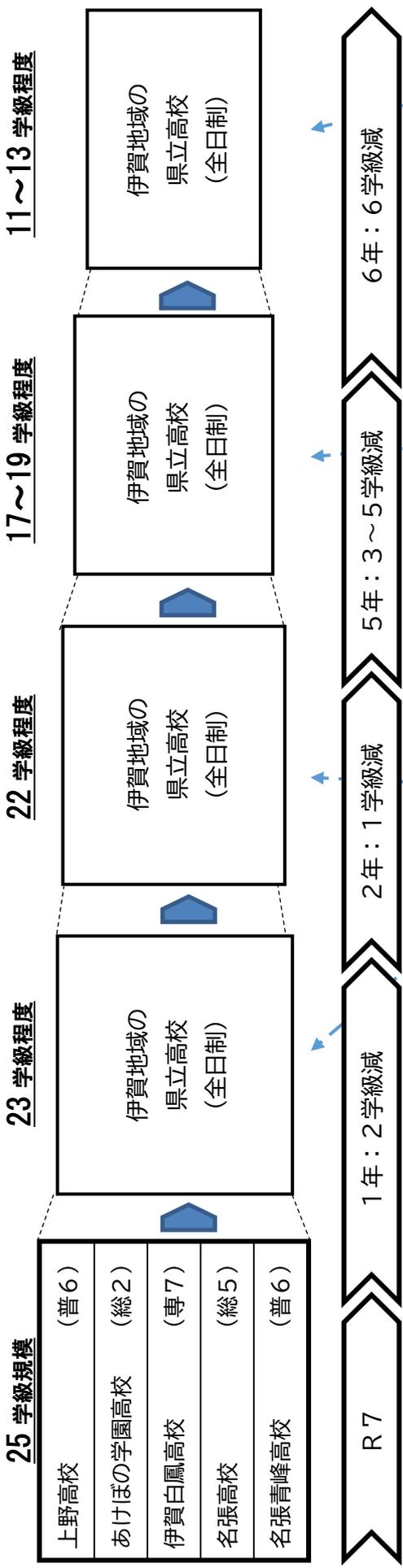
(参考)

卒業生数	15,777	16,244	16,055	15,891	15,712	15,488	15,241	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
前年度対比		467	-189	-164	-179	-224	-247	-472	-365	-404	49	-607	-650
R6.3対比					-179	-403	-650	-1,122	-1,487	-1,891	-1,842	-2,449	-3,099
小中学校在籍者数					15,683	15,463	15,226	14,884	14,500	14,123	14,159	13,548	12,890

令和21年度までの伊賀地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

資料4

令和7年度(現中3) 地域の中学校卒業予定者数 1,437人(前年度比+29) 募集定員1,000人	令和8年度(現中2) 地域の中学校卒業予定者数 1,358人	令和10年度(現小6) 地域の中学校卒業予定者数 1,321人	令和15年度(現小1) 地域の中学校卒業予定者数 1,076人	令和21年度 地域の中学校卒業予定者数 730人
---	--------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------



学級減への対応方針  
【R5協議会のまとめ(抜粋)】  
令和10年度以降の学級減に対しては、現在の5校の再編も含め検討し、その結果を令和7年度までに、当協議会の考え方としてとりまとめる。

# 伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて(令和7年度)

## 資料5

伊賀地域全日制課程		1	2	3	4	5	6		
学校名	大学科	募集定員 (R7)	1	2	3	4	5	6	
県立 上野高校	普通科	240	学際探究科	学際探究科	学際探究科	学際探究科	理数科	理数科	
県立 あげぼの学園高校	総合学科	80	製菓調理 美容服飾 情報教養 健康福祉	製菓調理 美容服飾 情報教養 健康福祉	4 系列/80人	7 学科11コース/240人	4 系列9専攻/200人		
県立 伊賀白鳳高校	専門学科	240	機械科 (35) ・機械科	電子機械科 (35) ・ロボット ・電気工学	建築デザイン科 (35) ・建築・インテリア ・デザイン	生物資源科 (35) ・生物資源科	フードシステム科 (35) ・フードサイエンス ・パティシエ	経営科 (30) ・経営科	ヒューマンサービス科 (35) ・介護福祉 ・生活福祉
県立 名張高校	総合学科	200	文理アドバンス系列 ・人文専攻 ・看護医療専攻	総合ビジネス系列 ・ビジネス専攻 ・情報処理専攻	健康スポーツ系列 ・健康スポーツ専攻	表現デザイン系列 ・美術専攻 ・音楽専攻 ・ファッション専攻 ・映像専攻	普通科系/480人		
県立 名張青峰高校	普通科	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科 【文理探究コース】	
私立 桜丘高校	普通科	155	普通科 (155)	普通科 (155)	普通科 (155)	普通科 (155)	普通科 (155)	普通科 (155)	

※大学の「普通科」には、普通系専門学科を含む

○全日制 ※私立 愛農学園農業高校 25人 農業科

○定時制課程 県立 上野高校 40人 普通科  
県立 名張高校 40人 普通科

○通信制課程 私立 英心高校桔梗が丘 60人 普通科:探究コース  
※私立 神科学園高等部伊賀 50人 普通科:選択登校型、全日型 (両型合わせた年間募集定員)

○高等専門学校 私立 近畿大学工業高等専門学校 160人 機械システム、電気電子、制御情報、都市環境 (3年次よりコース選択)

(※県外扱い)

資料6

# 伊賀地域の専門学科と総合学科の学び

## 専門学科の学び

## 総合学科の学び

【伊賀白鳳】		
学科	学科名	コース名
工業	機械	機械
	電子機械	ロボット
		電気工学
	デザ <sup>建築</sup> イン	建築・インテリア
デザイン		
農業	生物資源	生物資源
	シフ <sup>フード</sup> テム	フードサイエンス
		パティシエ
商業	経営	経営
福祉	ヒュー <sup>マン</sup> サー <sup>ビス</sup>	生活福祉
		介護福祉

【あけぼの学園】		【名張】	
系列名	系列名	専攻	
		表現デザイン	美術
製菓調理			
情報教養	総合ビジネス	ビジネス	情報処理
健康福祉	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ
美容服飾			
	表現デザイン	ファッション	音楽
		映像	
	文理アドバンス	人文	看護医療

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
上野	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	学際探究
あけぼの学園	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
上野農業	食農科学	生物資源																	
上野工業	景観園芸	フード																	
	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械	機械
	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械	電子機械
上野商業	仕理師工学	工業																	
	情報ビジネス	経営																	
	健康生活	ヒューマン																	
【学級数】	普通科	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4
	理数科	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	総合学科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	農業科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	工業科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
専門学科	商業科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
家庭科	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福祉科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

資料7①

普通科改革による学科改編  
普通5 ⇒ 学際探究4  
理数1 ⇒ 理数2

現在の普通科系以外の  
学びのバリエーション  
4系列  
・美容服飾系列  
・製菓調理系列  
・情報教養系列  
・健康福祉系列

7学科11コース  
・生物資源科  
・フードサイエンスコース  
・パティシエコース  
・機械科  
・ロボットコース  
・電気工学科  
・建築・インテリアコース  
・デザインコース  
・経営科  
・介護福祉コース  
・生活福祉コース

【R3～】  
35人・30人学級を導入

【R4～】 ▲2コース  
7学科13コース ⇒ 7学科11コース

35人×2学級  
35人×3学級  
30人×1学級  
35人×1学級

資料7②

現在の普通科系以外の  
学びのバリエーション

4系列9専攻

文理アドバンス系列  
・人文専攻  
・看護医療専攻

総合ビジネス系列  
・ビジネス専攻  
・情報処理専攻

健康スポーツ系列  
・健康スポーツ専攻

表現デザイン系列  
・美術専攻  
・音楽専攻  
・ファッション専攻  
・映像専攻

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
名張	総合 総合 総合 総合 総合	総合 総合 総合 総合 総合																	
名張桔梗丘	普通 普通 普通 普通 普通 普通 情報 英語																		
名張西	普通 普通 普通 普通 普通 普通 情報 英語																		
【学級数】	11 1 — 5 1	11 1 — 5 1	11 1 — 5 1	10 1 — 5 1	9 1 — 5 1	9 1 — 5 1	8 1 — 5 1	6 1 — 5 1	7 — 1 5 —	7 — 1 5 —	7 — 1 5 —	6 — 1 5 —	6 — 1 4 —	5 — 1 5 —	5 — 1 5 —	5 — 1 5 —	5 — 1 5 —	5 — 1 5 —	

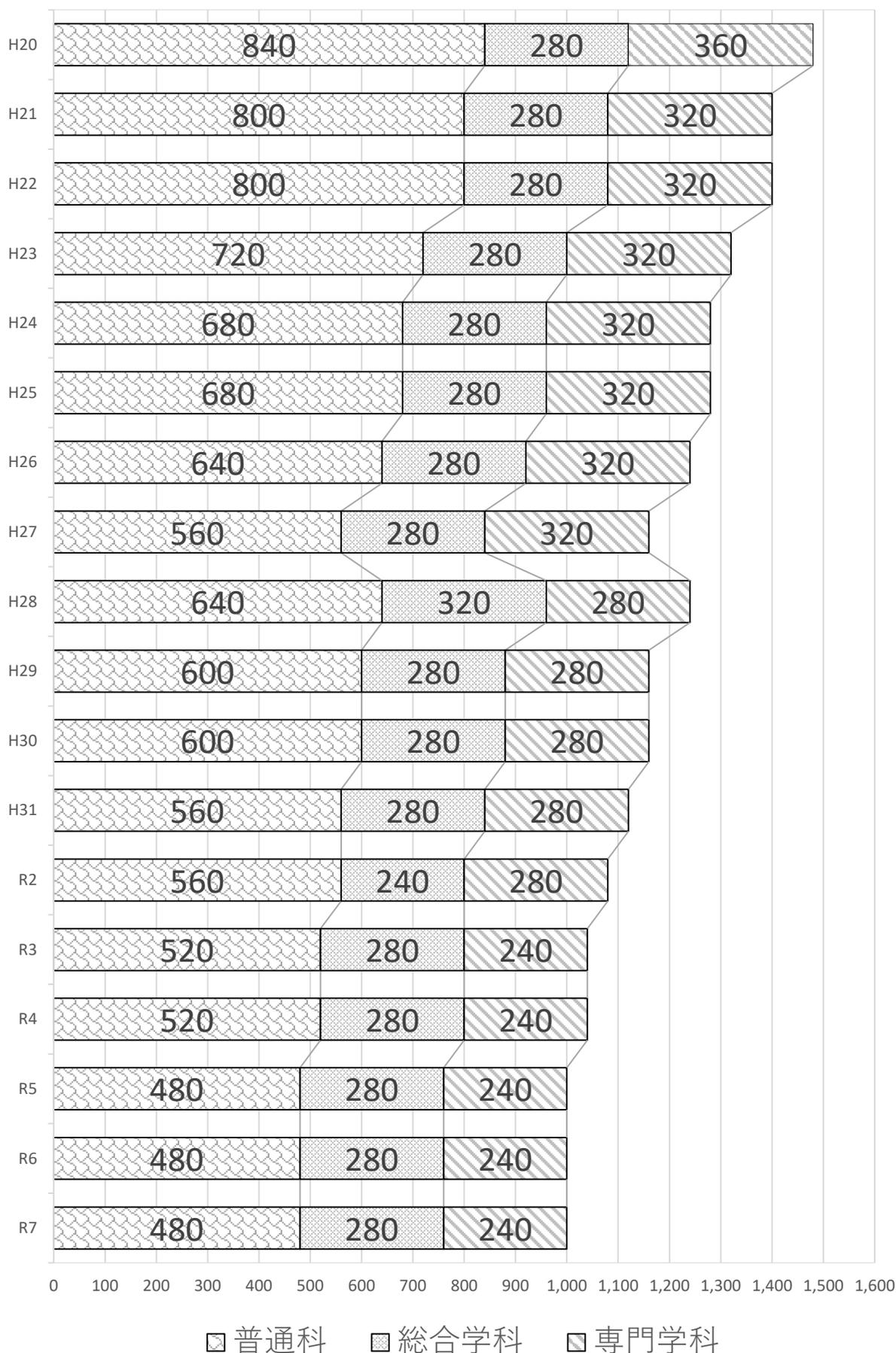
【6系列】  
人文学  
科学  
入ホーツ  
商業  
生活  
芸術  
デザイン  
芸術  
デザイン  
芸術  
デザイン

【4系列】  
文理アドバンス  
総合ビジネス  
健康スポーツ  
表現デザイン

2校を統合して  
名張青峰高校開校

伊賀地域県立高校の学科別募集定員の推移（人数）

資料 8

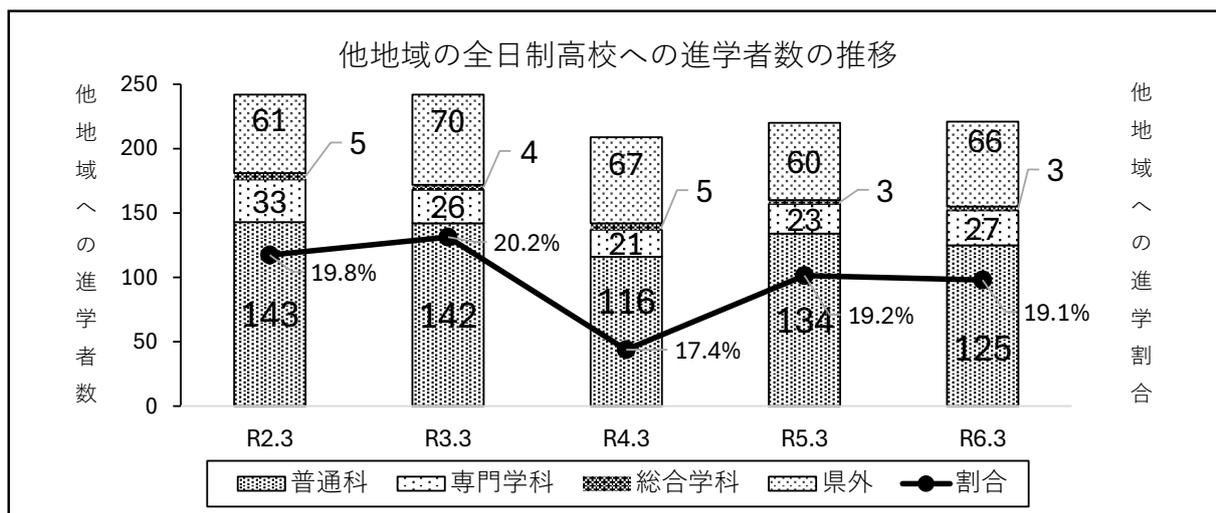


伊賀地域公立中学校卒業者の全日制高校への進学状況

資料 9

単位：人

		R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3		
公立中学校卒業者数		1,377	1,383	1,393	1,362	1,350		
全日制進学者数		1,225	1,198	1,201	1,143	1,155		
伊賀地域内		983	956	992	923	934		
県内他地域	普通科	津	48	40	28	37	35	
		津西	27	30	26	26	28	
		津東	4	4	3	9	8	
		四日市	3	2	2	1	0	
		白子	3	2	2	3	0	
		亀山	6	2	1	3	4	
		久居	3	3	3	1	0	
		白山	6	5	4	3	2	
		松阪	4	4	4	3	1	
		上記以外県立	7	8	5	3	3	
		私立	鈴鹿	1	4	5	11	11
			高田	5	9	8	11	11
			三重	17	19	18	16	11
			上記以外私立	9	10	7	7	11
	普通科計		143	142	116	134	125	
	専門学科	農業	2	1	2	0	2	
		工業	13	12	9	12	11	
		商業	8	6	8	5	10	
		水産	0	1	0	0	1	
家庭		2	2	2	3	1		
看護		1	1	0	2	0		
情報		7	3	0	1	2		
福祉		0	0	0	0	0		
専門学科計		33	26	21	23	27		
総合学科		5	4	5	3	3		
県内他地域計		181	172	142	160	155		
県外		61	70	67	60	66		
地域外計		242	242	209	220	221		
割合		19.8%	20.2%	17.4%	19.2%	19.1%		



県立高等学校(全日制)の学級数の状況(令和7年度)

資料 10

地域名	入学定員 (F7.9卒業見込数)	40人ベースの学級数								学校数	
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級		
桑名	1,200 (1,985)				桑名北(普) 桑名工業(工)				桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・理・看)	5校 (30学級)
四日市	2,520 (3,446)				朝明(普・福) 四日市四織(普) 菰野(普)		四日市西(普) 四日市中央工業 (工) 四日市農芸(農・家)	四日市商業(商)	川越(探・国) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)	11校 (63学級)
鈴鹿	1,120 (2,267)		石薬師(普)▲1		飯野(応子・英) 稲生(普・体)		亀山(普・情・家)	白子(普・家)▲1	神戸(普・理)▲1		6校 (28学級)
津	1,880 (2,535)		白山(普・商)				久居(普)	津東(普)▲1 津商業(商) 津工業(工) 久居農林(農・家)		津(普) 津西(普・国)	8校 (47学級)
松阪	1,000 (1,879)		飯南(総) 昂学園(総)		松阪商業(商)		松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)		6校 (25学級)
伊勢志摩	1,160 (1,748)		水産(水)		宇治山田商業(商) 伊勢工業(工) 明野(農・家・福)		宇治山田(普)		伊勢(普)		9校 (29学級)
伊賀	1,000 (1,437)		あけぼの学園(総)				名張(総)	上野(学探・理) 伊賀白鳳※ (商・工・農・福) 名張青峰(普)			5校 (26学級※)
東紀州	360 (415)				尾鷲※(普・商・工)		熊野青藍△5※ (普・総)				2校 (10学級※)
学校数		3校 (3学級)	6校 (12学級)	0校 (0学級)	12校 (49学級※)	10校 (50学級)	9校 (55学級※)	7校 (49学級)	5校 (40学級)	52校 (258学級※)	

※伊賀白鳳高校は、240人定員、7学級で募集

※尾鷲高校は、160人定員、5学級で募集

※熊野青藍高校を新設(木本校舎:普通科3学級+総合学科1学級、紀南校舎:総合学科3学級+総合学科1学級)と紀南高校(普通科2学級)は募集停止

※△:前年度比増、▲:前年度比減

## 伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について

### 1 生徒を対象としたアンケート結果

#### (1) 高校選びで重視すること(問6)

「通学のしやすさ・距離」(49.8%)、「学校の雰囲気・イメージ」(48.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(46.0%)、「学びたい学科やコースがある」(42.7%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.3%)の順となっている。

#### (2) 高校に期待する教育(問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(54.0%)、「基本的な知識が身につく教育」(46.2%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(44.2%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(43.2%)を期待している。

#### (3) 希望する学級数について(問10)

多い順に「2～3学級」(41.8%)、「4～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)、続いて「7学級以上」(3.9%)となっている。

#### (4) 通学時間について(問11)

多い順に「60分以内まで」(43.4%)、「30分以内まで」(29.3%)、「90分以内まで」(19.1%)、「120分以内まで」(5.0%)、「121分以上」(3.2%)となっている。

#### (5) 将来生活する場所について(問12)

「まだ決まっていない、わからない」(39.9%)が最も多く、続いて、「県外」(26.8%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(13.0%)、「地元(現在住んでいる市町)」(9.6%)となっている。

## 2 保護者を対象としたアンケート結果

### (1) 高校選びで重視すること (問6)

「学びたい学科やコースがあること」(71.2%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(68.1%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(63.3%)に続いて、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(42.8%)となっている。

### (2) 高校に期待する教育 (問8)

「自ら学び続ける力が身につく教育」(59.5%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(58.8%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(52.9%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(51.8%)を期待している。

### (3) 学級の規模について (問10)

多い順に「4～6学級」(51.7%)、「2～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)、続いて「7学級以上」(4.1%)となっている。

### (4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(59.4%)、「30分以内まで」(25.3%)、「90分以内まで」(12.8%)、「120分以内まで」(2.3%)、「121分以上」(0.3%)となっている。

### (5) 将来生活する場所について (問12)

「本人の希望次第」(67.0%)が最も多く、続いて、「地元」(8.7%)、「特に考えはない」(8.3%)、「県外」と「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.1%)となっている。

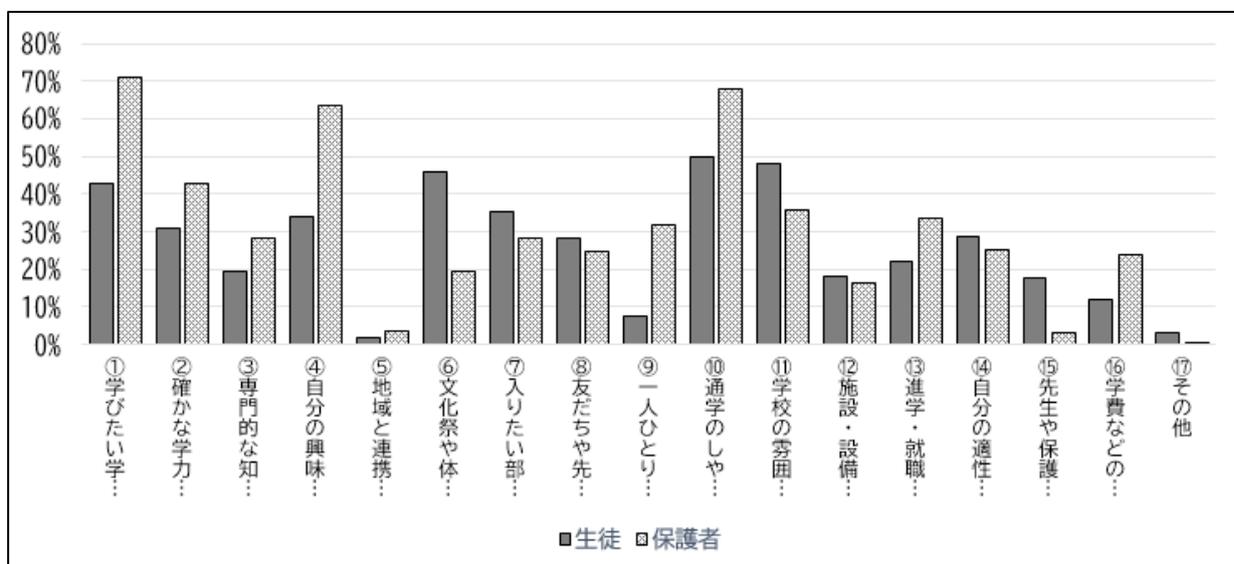
### (6) 今後の伊賀地域の県立高校のあり方について (問13)

今後の伊賀地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(61.6%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(33.6%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.8%)となっている。

### 3 生徒と保護者の回答の比較

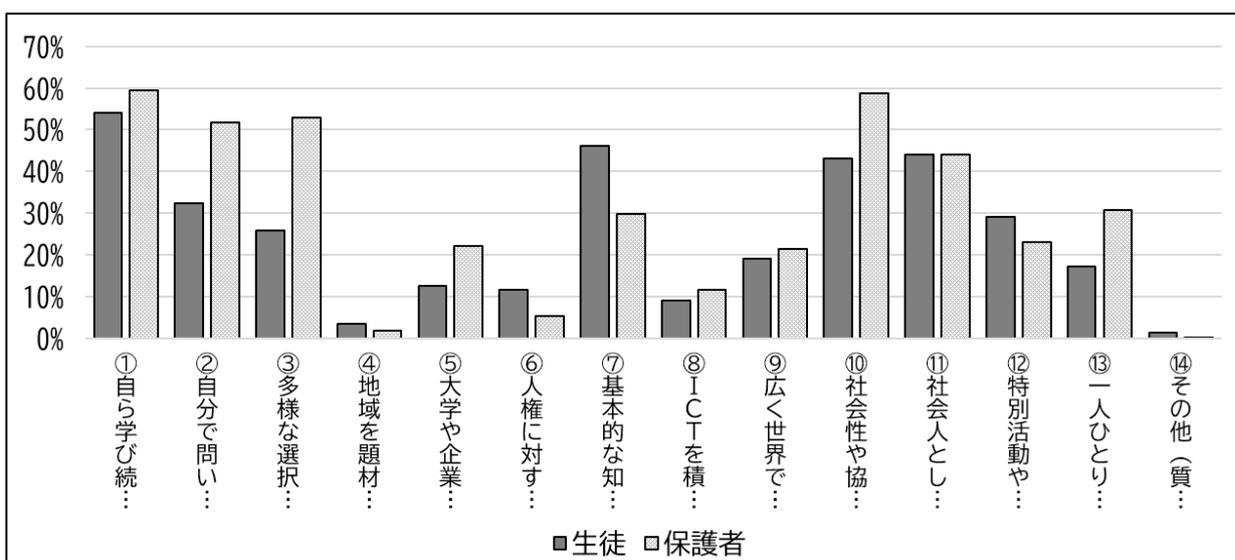
(1) 高校選びに重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象		生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
	順位	割合	人数	割合	人数	割合
① 学びたい学科やコースがある	④	42.7%	453	42.7%	①	71.2%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	30.8%	327	30.8%	④	42.8%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪	19.4%	206	19.4%	⑧	28.4%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	34.0%	361	34.0%	③	63.3%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑰	2.0%	21	2.0%	⑮	3.7%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	46.0%	489	46.0%	⑬	19.3%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	35.3%	375	35.3%	⑨	28.3%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑨	28.4%	302	28.4%	⑪	24.8%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	7.7%	82	7.7%	⑦	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	49.8%	529	49.8%	②	68.1%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	48.0%	510	48.0%	⑤	35.6%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	18.0%	191	18.0%	⑭	16.4%
⑬ 進学・就職の実績	⑩	22.1%	235	22.1%	⑥	33.7%
⑭ 自分の適性や能力	⑧	28.5%	303	28.5%	⑩	25.1%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	17.6%	187	17.6%	⑯	3.3%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	11.9%	126	11.9%	⑫	23.6%
⑰ その他(質問7の自由記述へ)	⑯	3.3%	35	3.3%	⑰	0.5%



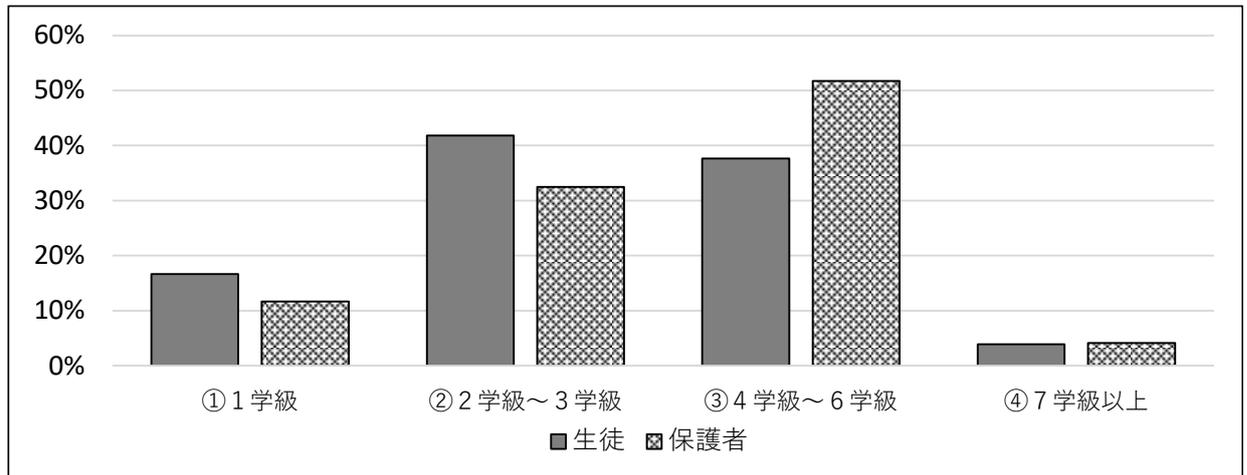
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
		回数	割合	回数	割合
①	自ら学び続ける力が身につく教育	① 573	54.0%	① 652	59.5%
②	自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤ 343	32.3%	④ 568	51.8%
③	多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑦ 275	25.9%	③ 580	52.9%
④	地域を題材として学ぶ教育	⑬ 38	3.6%	⑬ 21	1.9%
⑤	大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩ 135	12.7%	⑨ 243	22.2%
⑥	人権に対する意識が高まる教育	⑪ 125	11.8%	⑫ 60	5.5%
⑦	基本的な知識が身につく教育	② 491	46.2%	⑦ 328	29.9%
⑧	I C Tを積極的に活用する教育	⑫ 98	9.2%	⑪ 128	11.7%
⑨	広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧ 203	19.1%	⑩ 236	21.5%
⑩	社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④ 459	43.2%	② 644	58.8%
⑪	社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③ 469	44.2%	⑤ 483	44.1%
⑫	特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑥ 310	29.2%	⑧ 253	23.1%
⑬	一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨ 183	17.2%	⑥ 337	30.7%
⑭	その他(質問9の自由記述へ)	⑭ 15	1.4%	⑭ 3	0.3%



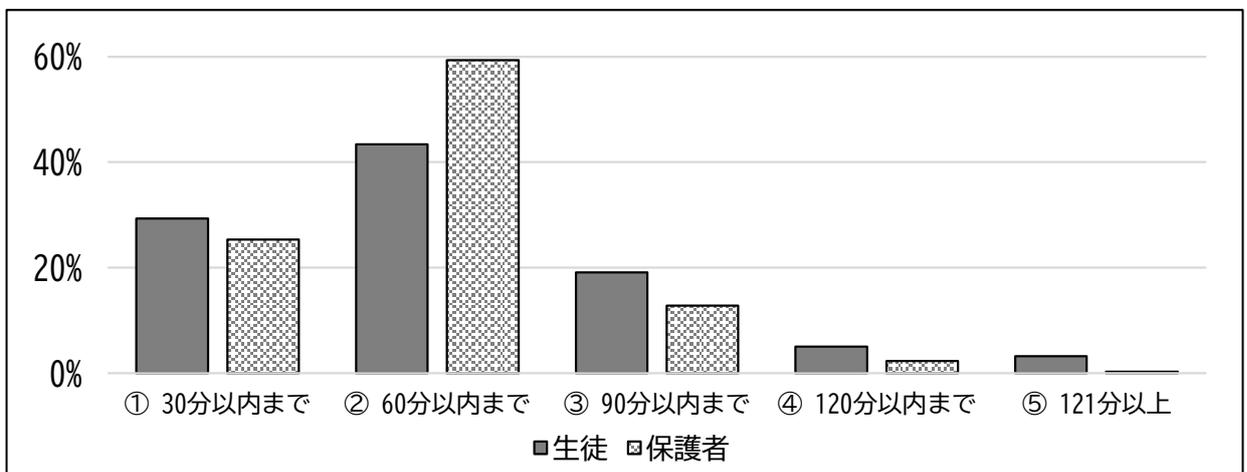
(3) 1学年あたりの学級規模 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,096人)	
		人数	割合	人数	割合
① 1学級 (40人)		③ 177	16.7%	③ 128	11.7%
② 2学級～3学級 (80～120人)		① 444	41.8%	② 356	32.5%
③ 4学級～6学級 (160～240人)		② 400	37.7%	① 567	51.7%
④ 7学級以上 (280人～)		④ 41	3.9%	④ 45	4.1%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062人)		保護者 (1,095人)	
		人数	割合	人数	割合
① 30分以内まで		② 311	29.3%	② 277	25.3%
② 60分以内まで		① 461	43.4%	① 650	59.4%
③ 90分以内まで		③ 203	19.1%	③ 140	12.8%
④ 120分以内まで		④ 53	5.0%	④ 25	2.3%
⑤ 121分以上		⑤ 34	3.2%	⑤ 3	0.3%



## 4 生徒と保護者の回答の比較より

(1) 「高校選びで重視すること (17 個の選択肢から 6 つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位 6 つに選択された項目のうち、共通するもの

① 学びたい学科やコースがある

生徒 4 位 453 人 (42.7%)、保護者 1 位 780 人 (71.2%)

④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒 6 位 361 人 (34.0%)、保護者 3 位 694 人 (63.3%)

⑩ 通学のしやすさ・距離

生徒 1 位 529 人 (49.8%)、保護者 2 位 746 人 (68.1%)

⑪ 学校の雰囲気・イメージ

生徒 2 位 510 人 (48.0%)、保護者 5 位 390 人 (35.6%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位 6 つに選択された項目

② 確かな学力を身につける授業が充実している

生徒 7 位 327 人 (30.8%)、保護者 4 位 469 人 (42.8%)

⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒 3 位 489 人 (46.0%)、保護者 13 位 211 人 (19.3%)

⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒 5 位 375 人 (35.3%)、保護者 9 位 310 人 (28.3%)

⑬ 進学・就職の実績

生徒 10 位 235 人 (22.1%)、保護者 6 位 369 人 (33.7%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位 2 つ(その他を除く)に選択された項目

⑤ 地域と連携した活動が充実している

生徒 17 位 21 人 (2.0%)、保護者 15 位 41 人 (3.7%)

⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒 15 位 82 人 (7.7%)、保護者 7 位 349 人 (31.8%)

⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒 13 位 187 人 (17.6%)、保護者 16 位 36 人 (3.3%)

(2) 「高校に期待する教育 (14 個の選択肢から 5 つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位 5 つに選択された項目のうち、共通するもの

① 自ら学び続ける力が身につく教育

生徒 1 位 573 人 (54.0%)、保護者 1 位 652 人 (59.5%)

② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒 5 位 343 人 (32.3%)、保護者 4 位 568 人 (51.8%)

⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒 4 位 459 人 (43.2%)、保護者 2 位 644 人 (58.8%)

⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒 3 位 469 人 (44.2%)、保護者 5 位 483 人 (44.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒7位 275人(25.9%)、保護者3位 580人(52.9%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 491人(46.2%)、保護者7位 328人(29.9%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 38人(3.6%)、保護者13位 21人(1.9%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒11位 125人(11.8%)、保護者12位 60人(5.5%)

⑧ICTを積極的に活用する教育

生徒12位 98人(9.2%)、保護者11位 128人(11.7%)

(3) 「1学年あたりの学級規模(1つ選択)」について

生徒は「2学級～3学級」(41.8%)と最も多く、次いで「4学級～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)。保護者は「4学級～6学級」(51.7%)と最も多く、次いで「2学級～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)となっている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒43.4%、保護者59.4%)、「30分以内まで」(生徒29.3%、保護者25.3%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒19.1%、保護者12.8%)、「120分以内まで」(生徒5.0%、保護者2.3%)となっている。

## 伊賀地域の県立高校の学びと配置に関する協議について

### 1 これまでの経緯について

伊賀協議会では「県立高等学校活性化計画」や当地域における「令和5年度のまとめ」、地域の中学生・保護者へのアンケート結果をふまえ、15年先の当地域の県立高校の学びと配置のあり方を見据えながら、令和10年度以降に想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応の方向性について協議を行ってきた。

### 2 これまでの協議について

#### (1) 県立高等学校活性化計画 (R4~R8)

「これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方」の概要

- ・これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- ・3学級以下の小規模校活性化の検証結果、15年先までの中学校卒業生の減少の状況等をふまえると現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行う。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議する。
- ・こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- ・次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

#### (2) 検討の方向性について（「令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」より）

- 協議にあたっては、これまで重ねてきた当協議会での議論や当地域の中学校卒業生の進路状況及びニーズをふまえ、次のことを基本として進めます。

- 1-1 専門学科のコースや総合学科の系列など多様な学びの選択肢の維持  
-2 普通科の一定規模の維持

- なお、具体的な協議を進める際には、県立高等学校活性化計画に示された考え方に加え、次の視点も大切にし、当地域の実情をふまえた丁寧な議論を行います。

- 2-1 少子化の中にあっても、消極的な方向ではなく未来に向けて前向きに発想すること  
-2 北部と南部に分けることなく伊賀地域全体で考えること、また、状況によっては隣接する地域も含めて考える必要があること  
-3 役割や機能が近い学校をできるだけ集約させ、スケールメリットを生かすこと  
-4 学校の選択肢を維持できるよう、当面の間は5校を存続すること  
-5 小規模校だからこそ通える生徒へ配慮すること  
-6 通学方法や通学時間、必要となる交通費などの状況を考慮すること

- また、子どもたちの多様な教育ニーズへの対応その他については、次のとおり整理することとします。

- 3-1 定時制や通信制に係る多様な学びについては、当地域に新たに開校した私立通信制高校に対する生徒の動向を注視していくこと  
-2 生徒の通学については、自治体の通学費の補助制度や各公共交通機関の取組について周知をしていくこと

### (3) 検討のスケジュールについて（「令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」より）

- 今後の当地域の中学校卒業生数は、令和5年3月卒と比較すると、令和8年3月卒は2学級程度の、令和10～14年3月卒は5年間継続して毎年1学級程度の定員減が見込まれ、合わせて7学級程度の学級減の可能性がります。
- 特に、伊賀北部では、令和5年3月卒と比較して、令和7～14年3月に段階的ではあるものの合わせて5学級程度の学級減の可能性がります。
- このことは、令和5年度現在、伊賀北部3校あわせて560人の定員が、令和14年度には360人（9学級）程度となることを意味し、今後の対応が非常に難しい状況です。
- こうしたことから、当協議会では、現在の学校の状況と少子化の進行をふまえ、伊賀地域の高等学校でこれからの子どもたちに必要となる学びを実現するため、当地域の高等学校の学びと配置のあり方について、検討の方向性を基本として協議を進め、機を逸することなく意見を取りまとめていくことが必要です。協議にあたっては、中学生やその保護者を対象としたアンケートを実施し、その結果もふまえて検討することとします。
- 多様な教育ニーズに応じた学びの検討については、引き続き、令和4年度に開校した私立通信制の状況と生徒の動向に注視していくこととします。
- なお、これまでの協議をふまえ、令和7～8年度に想定される学級減に対しては、検討の方向性に基づき5校の維持が望ましいと考えます。また、令和10年度以降の学級減に対しては、現在の5校の再編を含めて検討し、その結果を令和7年度までに、当協議会の考え方としてとりまとめます。

### (4) 令和6年度の協議会の主な意見（◇：R6年度1回目、◆：R6年度2回目）

#### 【学びと配置のあり方について】

- ◇ 前回の協議会では、「令和5年度のまとめ」を策定するにあたり、「各学校が小規模化することでかえって魅力が低下しないか心配している」、「普通科も一定規模が必要であり、早く再編の方向性を示すべきだ」、「少子化の中、学びの質と多様な選択肢の維持を両立することは難しい」といった意見が出されている。これまでと同じ議論の繰り返しにならないよう、学びのあり方ではなく、統廃合を含めた具体的な配置のあり方について協議すべきだ。
- ◇ あげぼの学園高校が統合されるという話を周りの保護者から聞くことがある。不登校を経験した子どもたちにとって、あげぼの学園高校のような小規模校が果たす役割はとても大きいため、ぜひ維持してほしい。
- ◆ 進学を希望していた高校が統合されると、県外への進学や就職を選択する中学生も増えるのではないかと。単に生徒数が少ないから統合するのではなく、どうすれば小規模校を残すことができるのかも考えてもらいたい。
- ◆ 学校規模ありきで議論を進めるのではなく、従来の教育方法を見直すという視点も必要ではないか。一方で、小規模校における丁寧な学びを大規模校でどのように実現するかについても、同時に考えていく必要がある。
- ◆ 一定規模を維持するために統合が必要であることは理解するが、単なる数合わせではなく、当地域にどのような高校が必要なのかをゼロベースで考えていくべきである。
- ◇ 名張市は交通の利便性がよく、他地域への流出も多いことから、学びと配置のあり方については、伊賀地域だけで考えるのではなく、通学エリアの実態をふまえて議論する必要がある。
- ◇ 令和10年度にどうするのかではなく、その先も見据えた方向性を議論すべきだ。経営者の視点からすると、先延ばしにするよりも、未来に向けて新しいものをつくるために早期に統合したほうがよい。
- ◇ 全日制高校でも通信制の学びを組み合わせることができれば、学校に行きづらい子どもたちも通いやすく、地域から必要とされる学校となるのではないかと。

- ◇ 他地域でも、学級減に伴って系列やコースを縮小したり、部活動数を減らしたりしたことなどにより、これまでできたことができなくなっている現実がある。学校を残せるなら残したいが、令和10年度以降の対応については、やはり再編を視野に入れる必要がある。また、3年前までには方向性を出すこととなっているが、子どもたちのことを考えると、少しでも早く方向性を示したほうがよい。
- ◇ 毎日通わなくても3年で卒業できる私立の通信制高校へ、公立高校より高い学費を負担してでも入学したいと思う生徒や保護者が増えている。当地域の私立通信制高校の状況と生徒の動向を注視しながら、多様なニーズに公立高校としてどのように応えていくことができるのかを考えることも重要ではないか。
- ◇ 県立高校においてもICTを活用した取組が進められているが、校内での活用にとどめずに、遠隔授業などを取り入れれば、交通不便地の生徒もその高校を選んでもくれるのではないか。
- ◆ アンケート結果をふまえると、当地域には国公立大学や難関私立大学への進学をめざす特進クラスと一般的な進学クラスを設置した1学年6学級規模の普通科高校、基本的な学びを中心に学びの選択肢をそろえた専門学科と普通科が共存する高校、そして、必要とする生徒がいる限りあけぼの学園高校のような小規模校、これら3つのタイプの高校が必要であると感じる。ただし、現在の場所ではなく、統合して交通の便のよい場所に新築したほうがよい。

#### 【学校規模について】

- ◆ 「令和5年度のまとめ」では、普通科における多様な学びの維持や大学進学に向けた指導の充実のためには、少なくとも1学年6学級はある方が望ましいとされている。一方、今回のアンケートでは、中学生の多くが2～3学級や4～6学級を希望していることから、こうした規模でも子どもたちが高校に期待する教育は実現できるのかについてあらためて確認すべきである。
- ◆ アンケートでは、子どもたちは学校に対して、学びたい学科・コースがある、多様な学びの選択ができる、学校行事が充実している、部活動が活発であるといったことを望む回答が多く、これらを実現するためには一定の規模が必要である。
- ◆ 高校の理科や地理歴史・公民科は、各科目に分かれて専門性を重視した学習を行っており、これらの科目をまんべんなく開設し、それぞれに専門性の高い教員を配置するためには、6学級以上の規模が必要である。
- ◆ 小規模校になると、理科において物理が開設できない、あるいは、物理を専門とする教員が生物や化学も指導するといったことが生じており、大学進学のニーズに応える専門性の高い学びの実現は難しくなる。
- ◆ 部活動は、引率や危機管理の面から部活動毎に複数の顧問を配置しているため、教員数すなわち学校規模によって設置できる部活動数も限られてくる。また、小規模校では、部員不足により、他校との合同チームで大会に出場せざるを得なくなることも多い。
- ◆ アンケートのクロス集計から、中学生は現在在籍する中学校と同じような学級数を希望する傾向が見てとれるため、生徒の希望だけでなく、さまざまな視点から高校における望ましい学校規模を考えていく必要がある。

#### 【通学に係る課題について】

- ◆ 地域によっては最寄り駅までのバスがなく、子どもたちが自力で高校に通うことが難しい。そういった地域の公共交通機関の充実について、何らかの働きかけができるとうい。

- ◆ 通学に関する課題を解決するためにバイク通学を認めるとともに、通学時の交通安全を確保するために、始業時間を遅らせたり、終業時間を早めたりしてはどうか。
- ◆ アンケートでは、通学のしやすさは高校を選ぶ際の重要な要素となっている。一方、国の調査では自宅から近いという理由で高校を選んだ生徒は入学後の満足度が低い傾向にあるとの結果があり、このことをふまえて考える必要がある。また、許容できる通学時間として、60分以内とする回答が多かったが、資料からは現在の伊賀地域の中で5校は概ねその条件を満たしていると言えるのではないかと。

#### 【その他】

- ◆ 地域の企業やまちづくりの立場からは、地元の生徒に少しでも早く地元で働いてもらいたいと考えている。一方で、アンケートでは、地域と連携した活動や地域を題材とした学びを望む声がとても少なく、歯がゆさを感じている。高校生がアルバイト等で地域で活躍し、そのまま地元へ就職していく姿を小中学生が見ることで、地域で働くイメージを持ってもらえるのではないかと。
- ◆ 行きたい高校や学科・コースがあっても、前期選抜では受検できないという声や、くくり募集により入学前に学科を選べないという声がある。一方で、部活動の強豪校に行きたいので学科にはこだわらないという声もある。こうした中、学びの選択肢の維持だけでなく、入試制度をどうしていくのかも大切になるのではないかと。

### 3 令和7年度まとめに向けた方向性（案）

- 少子化の中にあっても、当地域にどのような高校が必要なのか、未来に向けて前向きに発想する。
- 令和10年度以降の学級減への対応については、15年先を見据えて方向性を取りまとめる。
- 他地域へ進学する生徒が一定数あることから、地域の子どもたちが地域で学べるよう、普通科、専門学科、総合学科の学科・コース・系列など多様な学びの選択肢をできるだけ維持する。
- 大学進学ニーズに応える普通科高校が地域に必要であり、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置のためには、少なくとも1学年あたり6学級あることが望ましい。
- 部活動の活性化や学校行事の充実のためには、一定の学校規模があることが望ましい。
- 不登校を経験した子どもたち、外国につながる子どもたち、特別な支援を必要とする子どもたちなど、多様な子どもたちが安心して通える教育環境を実現する。
- 伊賀北部と南部に分けるだけでなく、隣接する地域の状況もふまえて伊賀地域全体で考える。
- 学びや機能などのソフト面と施設設備や立地などのハード面は分けて検討する。
- 通学方法や通学時間、交通費など通学に係る状況を考慮する。通学時間については、概ね90分以内、出来れば60分以内となることが望ましい。
- 当地域の私立通信制高校の動向を注視しつつ、公立高校として多様なニーズにどのように応えていくのかを、全日制課程だけでなく定時制や通信制課程を含めて検討する。